

第6学年 体 育(運動領域)

第6学年の学習到達目標

- (1) 各種の運動の課題をもち、活動を工夫して計画的に行うことによって、その運動の楽しさや喜びを味わうとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子を整え、体力を高める。
- (2) 協力、公正などの態度や健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

第6学年の学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	マット運動	できる技を上手にしたり、できそうな技に挑戦したりして楽しむ。	めあて できる技を繰り返したり、組み合わせたりする。 前転・開脚前転・後転・開脚後転・伸膝後転・伸膝前転・水平バランス・ブリッジ・側方倒立回転 めあて 練習の仕方を工夫して、できそうな技に挑戦する。 とび前転・倒立前転・ロングダート・首はねおき・頭はねおき
	表現運動	表したい感じが伝わるように動きを工夫して表現し、楽しむ。	めあて いろいろな表現の仕方を知り、自分で表現してみる。 めあて 個人や友達で表したい感じがうまく伝わるように動きを工夫し、みんなで力を合わせて表現する。
	水泳	できる泳ぎ方で記録を伸ばしたり、できそうな泳ぎ方に挑戦したりして楽しむ。	めあて できる泳ぎ方で長く泳いだり、速く泳いだりする。 めあて 練習の仕方を工夫して、できそうな泳ぎ方に挑戦する。 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ
	体力を高める運動	運動の仕方を工夫して体力を高める。	めあて いろいろな運動をして、今の体力を知る。 短縄跳び・ダブルダッチ・ボールとり・バンブーダンス・棒のぼり・雲ていわり・腕立て伏せ・リンボーダンス めあて 自分に合った運動をして、体力を高める。
後期	ハードル走	ハードルをリズムカルに走りこして、友達と競争したり、記録に挑戦したりして楽しむ。	めあて 対戦相手と話し合い、グループや個人で競争する。 体ほぐしの運動後、対戦相手とルールを決め、競争する。 めあて 自分のめあてを決めて練習し、記録に挑戦する。 体ほぐしの運動後、めあてを確認し、反省を生かし、記録に挑戦する。
	跳び箱運動	できる技を上手にしたり、できそうな跳び方に挑戦したりして楽しむ。	めあて できる技で、いろいろな高さや向きの跳び箱を跳ぶ。 開脚跳び・台上前転・下向き横跳び めあて 練習の仕方を工夫して、できそうな技に挑戦する。 かかえこみ跳び・あお向け跳び・頭はね跳び・首はね跳び
	ソフトバレーボール	攻め方や守り方を工夫して、ゲームを楽しむ。	めあて 簡単な作戦を立て、いろいろなチームとゲームをする。 めあて 対戦相手を決め、作戦を工夫してゲームをする。
	走り高跳び	リズムカルな助走から高く跳び、友達と競争したり、記録に挑戦したりして楽しむ。	めあて 競争の仕方を話し合い、友達と競争する。 体ほぐしの運動後、対戦相手とルールを決め、競争する。 めあて めあての合った場を選んで練習し、記録に挑戦する。 体ほぐしの運動後、めあてを確認し、練習を工夫して記録に挑戦する。
	バスケットボール	攻め方や守り方を工夫して、ゲームを楽しむ。	めあて 簡単な作戦を立て、いろいろなチームとゲームをする。
	サッカー	攻め方や守り方を工夫して、ゲームを楽しむ。	めあて 簡単な作戦を立て、いろいろなチームとゲームをする。 めあて 対戦相手を決め、作戦を工夫してゲームをする。

評価の観点・方法

<p>(1) 体育領域での評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。 単に運動を楽しく行うことだけでなく、運動の楽しさや喜びをどの程度味わったか、「楽しさの体験」がどうであったのか、また、どのような「運動の学び方」ができているのか、どんな「技能」ができていているのかということが、評価の観点となります。</p> <p>【運動や健康・安全への関心・意欲・態度】 進んで運動の楽しさや喜びを求めるとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動しようとしている。</p> <p>【運動や健康・安全についての思考・判断】 運動の特性に応じた自己の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。</p> <p>【運動の技能】 自己の能力に応じた課題を理解して、運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。</p>	<p>(3) 評価の方法 多面的な評価 日常の学習の様子だけでなく、学習カード、自己評価カード、実技など様々な面から評価します。 学習の進行中における評価 自分なりに見通しを立てながら積極的に課題解決をする態度や児童による自己評価を大切に評価します。</p>
--	---

特色ある学習方法

<p>(1) めあて学習 体育の運動領域では、2つの段階を通して学習を進めていきます。最初の段階は、「今もっている力で運動を楽しむ段階」です。この段階では、やさしい活動でそれぞれの運動の楽しさに十分触れることからスタートします。次の段階は「新しい工夫を加えて運動を楽しむ段階」です。このように「できる」ことからスタートする「めあて学習」を行っています。これは、子ども一人一人が自分の力に合った「めあて」の中身を工夫したり、決定したりしていく活動を重視しているからです。</p> <p>(2) 体ほぐしの運動 体ほぐしの運動とは、手軽な運動や律動的な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、自分や仲間の体の状態に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりすることをねらいとして行われる運動です。</p> <p>(3) 仲間とのかかわり 役割分担や協力、安全への心がまえなどに加えて仲間とのかかわりを大切にします。例えば、「体ほぐしの運動」では仲間との交流を重要なねらいとしています。</p>

使用材教等

<p>体操服、赤白帽子、水着、水泳帽、跳び縄、運動靴など マット、鉄棒、ハードル、跳び箱、ソフトバレーボール、サッカーボール、雲てい、走り高跳びなど</p>
--

留意事項

<p>見学の場合は、見学理由を書いた連絡帳を担任に見せるようにしたいと思います。保護者の方は、連絡帳に見学理由を書いてくださるようお願いいたします。</p>
--